

館報 教育記念館

No. 72
平成21年3月 発行

造形教育 作品展



ロボットづくり教室

主な内容

- ◎教育時評 富山県中学校長会 会長 小川 悦朗 2
- ◎恒例展 「教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展」 3
 「みんながんばってます作品展」「富山県造形教育作品展」
 「アイデアロボットフェスタ」「富山県中学校美術展」
 「富山大学学生卒業記念書展」
- ◎わが校の歴史から ★「富山市立小羽小学校」 4
 ★「南砺市立福光西部小学校」 5
 ★「南砺市立平中学校」 6
 ★「南砺市立上平中学校」 7
- ◎「学ぼう！ふるさと未来」支援事業、実践活動報告会 8
 平成21年度の展示計画、あとがき



発行所/財団法人 富山県ひとつくり財団 富山県教育記念館 〒930-0018 富山市千歳町 1-5-1
 TEL(076)444-2000 FAX(076)444-2001 E-mail:toyama@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp
 (教育記念館会議室ご利用の場合 ☎(076)433-2770)

発行人/富山県教育記念館 館長 齊藤和夫 印刷所/いおさぎ印刷株式会社



憂いに寄り添う余裕

富山県中学校長会
会長 小川 悦朗

一年の日本の世相を象徴する漢字一文字が、その年の暮れになると決まって関心を集めます。一昨年は「偽」、昨年は「変」であったことは、報道等でご承知の通りでしょう。なるほど、相次ぐ商品偽装や米国に端を発した世界経済の変調ぶりからしても、大きく頷けるところです。

顧みて、教育行政の施策等に眼を転じても、偽や変と思いが当たる事例のいくつかが脳裏をかすめます。また、足元の学校でも、一人一人の生徒への配慮のなさが、公教育への信用を傷つける、あってはならない変な事態を招いていることにも心を痛めます。その一方、様々な方向から寄せられる要求や結果責任を問う声に、戸惑いを覚えることも少なくありません。とは言え、本県教育を高い頂きに立って鳥瞰すれば、いくつかの蛇行は伴いつつも、保護者や校区の方々、更には行政の熱い支援のもと、確かな方向性を持って流れていると言えましょう。

さて、常日頃私は、思い入れの込めた漢字一文字をもっていきます。それは、「優」です。

私たちの生活のなかでは、群を抜いて卓越した結果に対する評価として優勝、優良、優秀と優を冠して賞賛しています。だからこそ、精神力は言うに及ばず体力や時間、資金等を可能な限り注ぎ込み、芸術であれば、そのモチーフと、スポーツであればその競技と、確固とした姿勢で向かい合っているのです。

ここで、私が「優」に思い入れるのは、他と比べて程度や質が上であるとか、優れているという意味合いではありません。優という漢字は、つくりの部分の「憂」に人偏が付されて、「憂い」に「人」が寄り添う優しさを表現しているからです。音楽であれば楽譜や楽器と、スポーツであればルールや用具等に、心を寄り添わせる優しさがあったればこそ、真に秀でた結果を収めることができるも

のと考えるからです。例えてみれば、幼少期の子どもは甘いことをおいしいと知覚します。これは、味覚が十分に成長・発達していないことによるものであろうと考えます。しかし、成長とともに味覚が、苦さや辛さのなかにうまさを知覚するようになってきます。これと同じように、ある段階まで、筋骨隆々として格好の良いことが「強い」ことの象徴として捉えていても、様々な経験を重ねていくと、次第に真の強さとは、無償の愛をもった優しさに裏打ちされたものとわかってきます。このことに勝手な納得と期待感を抱いている次第です。

ところで、今は、官民とも時間的にも人的にも、更には財政的にも余裕が失われつつあるように思われます。そんななかで、個人としても組織としても、具体的な目標を掲げ実践し、その評価に基づいて再挑戦する手法そのものを否定するつもりは、毛頭ありません。しかし、組織運営の軸足が、少ない費用で数値を伴った具体の姿で検証し、効果・効率を競うことに移行しているのではと、私なりに危惧の念を抱いています。組織を構成する一人一人の憂いに寄り添う余裕を失いつつあるのかもしれない。文部科学省の調査による教員の病気休職者のうち精神的疾患の占める割合は、近年、増加の一途を辿り60%を超えているのではと考えています。

このことは、単に教員の精神的ぜい弱さを物語るものとして片づけることがあってはなりません。学校という場では、教員としての使命感のみに裏打ちされた指導助言に走ることなく、子どもやその両親の抱く憂いに、共に温かい血の通う人として寄り添うことの余裕と優しさこそが、今求められることと確信しています。

平成20年度 後期恒例展（1階 多目的ギャラリー）

教職員退職厚生部富山支部会員作品展

10月17日(金)～10月26日(日)



富山支部報『友がき』には、会員作品展の欄に、「豊かな感性と年輪を重ねた技による逸品ぞろい」と書かれていました。その記述にふさわしい89点の作品が展示されていました。



みんながんばってます展

11月1日(土)～11月16日(日)



「展示されている作品すべてが、私の心の中に訴えるものが多く感動しました。素直な心、明るい心をいついつまでも忘れないものでありたいと…。いい作品を見せていただきました。」(来館者)



富山県造形教育作品展

11月22日(土)～12月7日(日)



「わたしの絵が、こんなすごい所にてんじされていてうれしかったです。高校生の絵もならんでいました。わたしもこんなにうまく、高校生になったらかきたいなと思いました。」(来館者)



アイディアロボットフェスタ・ロボット展

12月13日(土)～1月25日(日)



チャレンジデーの2日間は、1階ロボット展会場は大賑わい。中学校6校より8台、工業高校7校より20台、高等専門学校2校より4台のロボットが展示され、そのロボットのデモンストレーションもありました。



富山県中学校美術展

2月7日(土)～2月22日(日)



「どれも独創的、若さがあるふれている、多感。新しい細胞、エネルギーを感じます。」
「中学の孫の絵を見に来ました。自然の中でかかれた絵を見て、素直に育っている事に安心しました。 祖母より」
(来館者)



富山大学学生卒業記念書展

2月28日(土)～3月6日(金)



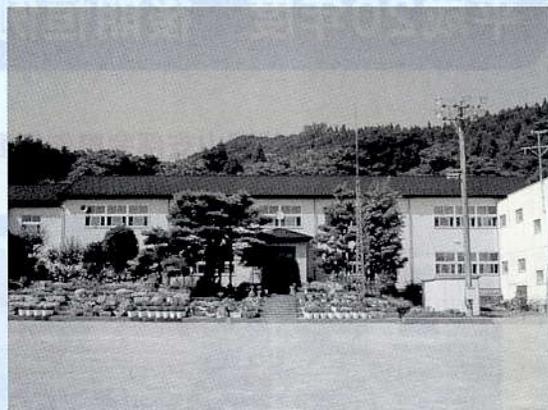
第57回を数える富山大学学生卒業記念書展。指導教員と書道部員の作品が計18点、堂々と展示されました。週1回ほど学生会館に集まって書に励み、1年間の成果をこの書展に結集するのだそうです。





地域と共に豊かに学ぶ

富山市立小羽小学校



<校区の概要>

本校は、旧富山市の南部、神通川の左岸に位置し、川沿いの地区と山間部にある地区とに二分された人口340人余りの農山村地にある。校区は、昭和28年に旧婦負郡黒瀬谷村の東半分の8地区が分村し旧大沢野町に合併した。美しい自然に恵まれ、化石の宝庫でもあり、一帯からは貝や古代象の歯の化石などが多く発見されている。

住民の教育に対する関心は高く、学校行事や地域の行事には、世代を問わず積極的に参加し、大変協力的である。

<学校の概要>

明治8年に須原地区の浄光寺にて、黒瀬谷村立須原小学校として創校された。明治7年に土地区の正福寺に開設された「土小学校」を季節分校として再編しながら、その後小羽尋常小学校、小羽尋常高等小学校、小羽国民小学校を経て、昭和28年には大沢野町立小羽小学校と、平成17年には富山市立小羽小学校と改称された。現在の校舎は昭和29年に建設された趣のある木造校舎である。

現在、児童数4～6年の8名で、複式を含む2学級編成の小規模校である。自然に恵まれた地域や少人数のよさを生かし、豊かな体験学習を中心とした「一人一人が主役」の教育を推進している。地域の温かい支援を得て、子供たちが主体的に学び、活動する楽しい学校づくりに努めている。

平成21年3月には、133年の長い歴史に幕を下ろし、大沢野小学校と統合する。子供たちは明るく素直である。本校で学んだことを誇りに、今後も健やかに伸びていってほしいと願っている。

<特色ある取り組み>

1 豊かな自然体験学習

本校では、「総合的な学習の時間」に、学校田や畑で有機農法による米と野菜作りを行っている。土作りから収穫までの学習を通して、環境問題や安心・安全な食、人とのかわり方など学年に応じた多彩なテーマで学習を進めてきた。また、「ふるさとふれあい活動」という地域の方との交流活動をこの学習の中に取り入れ、一年を通して豊かな自然体験学習を行っている。山菜採り、田植えや稲刈り、脱穀などの農作業、もの作り活動、そして、長年県や市から表彰を受けてきた校庭一杯の花壇づくりなど様々な活動で、教育ボランティアの方々の熱心な指導を受け、子供たちは多くのことを学ぶことができる。それとともに、自然を愛する心や思いやり、勤労精神など豊かな心をはぐくんできた。子供たちは、春には校区全戸へのチューリップ配り、秋には収穫感謝祭で地域へ感謝の気持ちを届けている。

2 「さわやかタイム」と「いきいきタイム」

朝活動の時間を「さわやかタイム」とし、火・木・金は、国語と算数のドリル学習や発展問題練習、音読を行い、基礎的基本的な内容の定着とその活用力の向上を図っている。他の日は栽培活動を行うなど、毎日充実した時間を過ごしている。

そして、2・3限の間の休憩時間「いきいきタイム」では、始めに全校で「5分間走」を行ったあと、自由遊びをする。しかし、少人数ということもあり、全員一緒に球技やマット・跳び箱・鉄棒、一輪車など様々なスポーツや遊びに親しんでいる。体力の向上のみならずよりよい人間関係の育成に役立ち、たくましく生きる力の源となっている。

わが校の歴史から



渋江川と山々に囲まれて
—大好き南蟹谷—

南砺市立福光西部小学校



<校区の概要>

本校は、南砺市の西端に位置し、峠を境に石川県と接する山間地帯である。近年、国道304号線や県道等の改良により、交通の便が大変よくなってきた。

校区は8つの集落からなり、昭和30年までは、南蟹谷村であった。世帯数は200戸、人口は641人（平成20年4月1日現在）で、徐々にではあるが減少の傾向にある。

校区住民の学校教育に対する関心は伝統的に高く、保護者や地域の方々共に、支援や奉仕活動などに大変協力的である。

<学校の概要>

昭和49年4月に土山小学校と砂子谷小学校が合併して、福光町立西部小学校として開校した。

周囲を渋江川の清流がめぐり、医王山から連なる山々に囲まれた、自然が豊かな学校である。

現在、児童数は23名で複式の3学級編制である。地域の特性や少人数のよさを生かした教育活動を行っている。

平成21年3月には、35年間の歴史に幕を下ろす。

<特色ある活動>

○地域のよさを生かした活動

蓮如上人ゆかりの土山御坊や縄文時代の石器が見つかった下山遺跡について、地域の方に現地指導を受け、地域の歴史や文化にふれている。また、学校田での田植え、稲刈り、脱穀等を地域の方々と一緒にし、働くことの大切さを学ぶとともに、地域の方とふれあう機会もしている。

学校の裏山を利用した「山のサーキット」

は開校当初にPTAの手で造成されたものであり、毎年点検や修理が行われている。子供たちはサーキットの遊歩道を駆け上がったり、遊具で遊んだりしながら、体力づくりと自然にふれ合う活動を行っている。

○仲間意識と活動意欲を高める活動

全校の子供を3団の縦割りの仲良しグループとして編制し、体力づくりや清掃活動、給食準備、音楽活動等を行っている。

1年間を通してグループで活動することで、責任感や他を思いやる心が育まれている。

○保育園や他校との交流活動

隣接する砂子谷保育園と運動会を一緒に開催することをはじめとして、子供たちは日常的に園児や保育士とふれ合っている。

また、金沢市の三谷小学校と秋の交通安全キャンペーンを共催している。また、同じ金沢市の医王山小学校とは、平成7年以来毎年1回の交流活動を行い、互いに友情を深めている。

福光中部小学校とは、来年度の統合を見越して今年度14回の交流学习を行っている。

○地域の清掃活動

月に1度、学校から自分の集落まで、通学路の「クリーン活動」を行っている。遠いところでは4kmの道のりがあり、いつもはバスで通っている道を歩いて、空き缶やごみを拾いながら地域の美化に努めている。

この活動は、長期休業中にも続けられ、校外班ごとに地区の公民館やラジオ体操をする神社の境内などを清掃している。



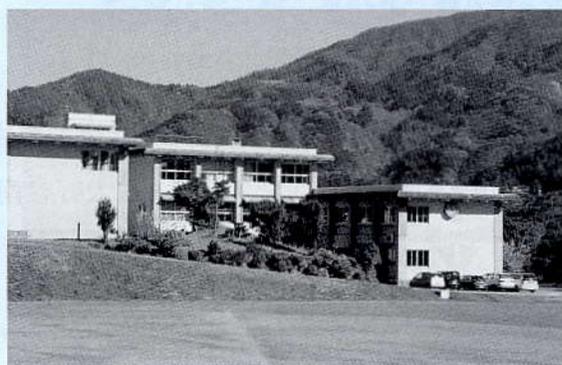
わが校の歴史から



地域と共に歩む学校

—「菁莪」の理念をもって—

南砺市立平中学校



<校区の概要>

平中学校区は、南北およそ15km、東西9kmの旧平村全域である。22ある集落は、庄川をはさむ河岸段丘や山の中腹地に点在し、現在約400世帯、1200余人が住んでいる。

当地では、古くから、こきりこ唄、麦屋節など数多くの民謡が伝承され、「民謡の宝庫」と言われている。和紙づくりも盛んである。昭和59年には、住民が念願していた五箇山トンネルが開通し、近隣市町村との行き来が容易となった。その後、昭和60年に「たいらスキー場」が完成し、平成7年には、相倉合掌造り集落が世界遺産に指定された。東海北陸自動車道五箇山インターチェンジの設置、全線開通により県内外からの観光客が大幅に増えている。

<学校の概要>

本校は、昭和22年4月、庄川縁の下梨地区に創設された。校区が広いため、東中江地区には分校を擁していた。また、冬季間の通学が困難となるため寄宿舎「菁莪寮」を開設している。その後、昭和37年に分校は廃されたが、寄宿舎は平成14年3月まで続く。生徒数は、昭和37年の334人がピークでその後漸減し、本年度は、24名である。

創校30周年を迎えた昭和52年、現校舎が中腹地に新築落成し今日に至っている。昭和41年の全国へき地教育研究会をはじめ、県へき地教育、文部省（文科省）より「道徳教育」「中高一貫」「豊かな体験活動」などの研究指定を受け、その成果や課題等を公開してきた。

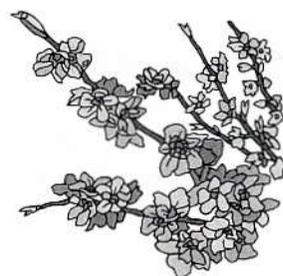
<特色ある活動>

- 各集落の春祭りが終わった5月中旬、小中高合同運動会を行っている。プログラム

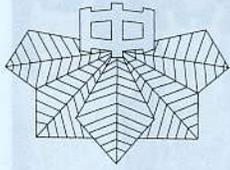
には、小中高生が一緒に行う「団子4兄弟 春の風を」などがあり、最後を全員の麦屋笠踊り・手踊りで締めくくることが恒例となっている。地域の人たちも楽しみにする伝統的な行事として今年で46回を数える。

- 総合的な学習の時間「菁莪タイム」には、民謡「こきりこ」「麦屋」の地域講師を迎え、地方、唄及び踊りの習得を目指して活動している。その成果は、学校文化祭や平地域文化祭等で地域の人たちに披露している。この他、相倉での観光客を対象とするガイド活動や合掌家屋の清掃奉仕活動など、平の伝統文化を理解、継承する体験的な活動を行っている。
- 部活動では、バレーボール、バドミントン、文化の3部を設置している。また、冬季には、スキー部としてアルペン・クロスカントリーの2部が活動している。バレーボール部は、昭和45年に全国大会に初出場して以降、毎年、県大会、北信越大会で活躍している。また、スキー部は、毎年全国大会に出場し、ここ数年は5種目で優勝を飾っている。

本校は、20年度末をもって閉校し、現校舎は取り壊される。そして、4月、上平中学校と統合し、「平中学校」として新たに開校する。

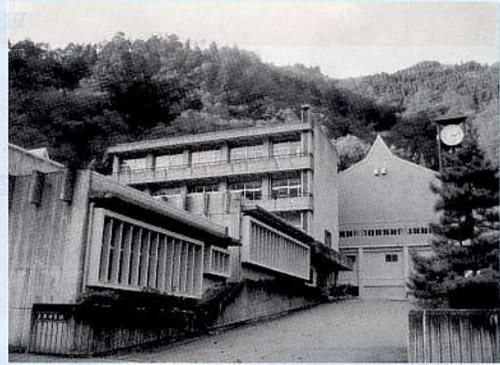


わが校の歴史から



上平中の歴史と 伝統をいつまでも

南砺市立上平中学校



<校区の概要>

校区である上平地域は、平成16年11月1日に南砺地区8町村の合併により誕生した南砺市の最南端に位置し、岐阜県白川村と隣接している。村落は庄川の河岸段丘上に点在する16の集落によって構成され、上平地域の人口は平成20年5月1日現在776人である。文化遺産としては、平成7年に菅沼集落が、五箇山・白川郷の合掌造り集落として世界遺産に登録され、近年交通網の整備とともに景勝地、史跡観光地として観光客も増加している。

地域住民の教育に対する熱意は高く、PTAを中心に学校行事などの活動にはとても協力的である。

<学校の概要>

上平中学校は、昭和22年度より西赤尾に本校、皆葎に分校があったが、昭和52年4月より皆葎に鉄筋4階建ての校舎が完成し、統合された。通学距離が約10kmの生徒もいるので、スクールバスを運行し、遠距離生徒の通学の便を図っている。昭和56年11月、すぐれた設備をもった体育館が新築され、社会教育にも活用されている。平成16年11月より、南砺市立上平中学校となったが、平成21年4月にはとなりの平中学校と統合し、新しく平中学校としてスタートする予定である。

現在、生徒数は24名、3学級の小規模校である。部活動は、夏季は男子バレーボール部と女子バトミントン部であるが、冬季にはアルペンスキー部、クロスカントリースキー部が加わり優秀な成績をあげている。平成19年には全国中学校スキー大会男子リレー優勝や同20年には県中学スキー選手権大会男子リレー3位、女子リレー3位、同18年には北信越中学校総合競技大会男子バレーボールの部ベスト8などである。また、郷土芸能部もあり、

運動部活動日以外の夜間や休日に行っている。

<本校の教育>

○日課運行の工夫

補欠授業を作らないようにし、祝日や行事があっても各教科の授業を同じ割合で確保している。また、冬期間はスキーの各大会への出場によって欠席者が増えるので、2学期末までに各教科の年間授業時数の約8割を確保できるようにしている。

○選択教科の充実

新学習指導要領の移行に当たり、選択教科の授業時数は減ってきているが、今年度までは最大限に確保し、一人一人の学びを深められるようにしている。特に各検定を視野に入れた選択Kは、実施時期を検定に合わせて設定している。

○ゆとりある日課運営

朝の会を20分間、帰りの会を15分間と長くし、生徒企画の活動や学級の話し合いなどに使えるようにしている。また、1, 2校時、3, 4校時、5, 6校時の業間を5分短縮し、給食後に25分間のゆとりの時間を設け、読書や運動、音楽活動、生徒会活動、花とみどりの少年団活動など、生徒一人一人が自主的に活動する時間として生かしている。

○地域に根ざした特徴的な教育活動

上平地域の自然や歴史、文化、人材を生かした活動として、生徒全員が参加する郷土芸能部や桂湖でのボート教室、タカンボースキー場を使った保健体育の授業などを行っている。また、総合的な学習の時間では、合掌造りや山の生活、炭焼きなどの地域の文化にテーマを求めた演劇の創作を行っている。

「学ぼう！ふるさと未来」支援事業 報告会開催

平成21年2月20日(金) 富山県教育記念館 21会議室 15:00～

砺波市立庄南小学校

『種もみづくりやチューリップの土を生かした地場産業について、その歴史や人々の営みに学び、進んでかわり、ふるさと庄南を愛する心を育てる。』

- ・庄南なかよしウォーク
- ・大門そうめん博士にチャレンジ
- ・「チューリップ産業を育てた人々」
- ・「食料生産を支える人々」
- ・チューリップフェアでのボランティア活動



大門そうめん博士にチャレンジ



昔の遊びをしよう

富山市立上滝小学校

『「自分もよくてみんなもよい」を実践できる子供の育成～かわり力の育成～』

- ・お年寄りとの昔の遊び
- ・地域の方に教わる絵手紙
- ・凧作りを学んで楽しもう
- ・謡曲教室の方との五色百人一首
- ・米づくりについて学ぼう
- ・花の寄せ植えを学ぼう
- ・「スマイル・コミュニケーション・プロジェクト」

立山町立立山芦峯小学校

『地域の自然、文化、歴史、人とかわることを通して、たくましく生きる子供の育成』

- ・しいたけ・なめこの植菌と缶詰体験活動
- ・伝統料理作りを行ったふれあい活動
- ・生活科や総合的な学習の時間での地域素材の教材化



伝統料理によるふれあい活動



お寺の歴史を聞く

上市町立南加積小学校

『進んで人や自然・地域・事象に働きかけ、自分らしく表現し、互いにかわり合う児童の育成』

- ・「みなみのかるた大発見!」「かるたにつたわるねがい」
- ・チャレンジ!南加積産米作り
- ・発見!体験!南加積の歴史探訪

富山市立速星小学校

『人や地域に豊かにかかわりながら自ら働きかけ、よりよく生きる子供の育成～一人一人が学ぶ楽しさを味わい、共に高め合う子供の育成を目指して～』

- ・ディサービス施設や保育所との交流活動
- ・地域まで広げた挨拶運動、清掃活動、親切の輪
- ・地域の歴史に学ぶ「総合的な学習の時間」



学校から地域へ親切の輪

平成21年度の展示計画

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| ◆ 特別展「富山県定時制教育80年の歩み」 | 4月25日(土)～6月7日(日) |
| ◆ 「富山県版造形教育作品展」 | 6月13日(土)～7月12日(日) |
| ◆ 「マセマティカル・ワールド展」 | 7月26日(日)～9月6日(日) |
| ◆ 「子どもの目、自然不思議発見写真展」 | 9月13日(日)～10月11日(日) |
| ◆ 「退職厚生部富山支部会員作品展」 | 10月16日(金)～10月25日(日) |
| ◆ 「特別支援学校・みんながんばってます作品展」 | 10月31日(土)～11月15日(日) |
| ◆ 「富山県造形教育作品展」 | 11月21日(土)～12月6日(日) |
| ◆ 「アイデアロボットフェスタ」 | 12月12日(土)～1月24日(日) |
| ◆ 「富山県中学校美術展」 | 2月6日(土)～2月21日(日) |
| ◆ 「富山大学学生卒業記念書展」 | 2月27日(土)～3月5日(金) |
| ◆ 「富山県版造形教育作品秀作回顧展」 | 3月13日(土)～4月11日(日) |



あ・と・が・き

教育記念館の1階ギャラリーでは年11回の展示会を行っており、いつも子供たちの楽しい作品の世界があります。ぜひ、気軽にお立ち寄りください。